

第 1 回大河ドラマを生かした博覧会運営委員会での主な意見

項目	ご意見	対応
大河ドラマを契機としたプロモーション	● ジョン万EXPO推進協議会で、既にキャラクターを 4 つほど作っている。キャンペーンを取り組んでいくためにはキャラクターが不可欠であり、イラスト等でも作成できないか。 ● 高速バスへのラッピング広告は、都市部でのPRに効果的であり、検討してもらいたい。 ● 大河ドラマ放送に向けて、飲食店のフェア、企業・自治体とのコラボなど、幅広い広報をしていくこととなる。東京での広報体制を強化し、チーム化を検討してもらいたい。	● 今後、博覧会プロモーションの全体戦略を検討する中で、ジョン万次郎や幕末の偉人をキャラクターとして活用することを検討していく。その際には、ジョン万EXPO推進協議会のキャラクターとイメージが重複しないように留意する。 ● 高速バスラッピングを含め交通広告については、費用対効果に鑑みながら、広告内容及び場所・期間の最適化を検討していく。 ● 高知県地産外商公社や県外事務所の担当でチーム化を検討する。
受け入れ環境整備	● 団体客を受け入れられる拠点が、特に県西部で不足している。新しく施設を整備するのは時間がかかるので、既存施設の営業継続支援や運営サポートのほか、観光協会等のホームページに詳細な情報が掲載されているだけでもありがたい。 ● 生家周辺の案内や駐車場については、県と土佐清水市が協議し、整備を進めてもらいたい。 ● 生誕地や出航地である宇佐などを巡り、ジョン万次郎の足跡を学ぶ旅（エデュケーショナルツアー）を造成してはどうか。 ● 旅行前に周遊イメージが持てるよう、初心者・リピーター向けのモデルコースを提示するとともに、旅先での「プラスワン」を促すため、コンシェルジュのようなゲートウェイ機能やレコメンド機能を充実させ、長期周遊を促進してもらいたい。 ● 県内の文化施設等で、河田小龍の作品の展示してはどうか。	● 広域観光組織での情報発信の充実や市町村や拠点施設が取り組む周辺事業者との連携やSNS等を活用した情報発信に対し、専門家を派遣してサポートしていく。 ● 観光客向けの駐車場整備について既に土佐清水市と協議を進めており、整備予定。 ● どっぶり高知旅CP事業の中で、土佐市宇佐町を舞台に地元ガイドとともに、ジョン万次郎が出港した港から船出の話を聞きながら、まち歩きを楽しみ、老舗鯉節工場や和菓子店を訪れる商品を造成しており、今後も教育旅行のセールス活動の中でも活用し、採用を促していく。 ● 各エリアの玄関口となるビジターセンターの整備や機能強化のほか、市町村等が取り組む周遊促進の仕組みづくりへの専門家派遣への支援を検討する。 ● 坂本龍馬記念館でジョン万次郎に関する企画展の開催を検討しており、関連する展示として河田小龍の展示についても館と協議しながら検討していく。

第 1 回大河ドラマを生かした博覧会運営委員会での主な意見

項目	ご意見	対応
「食」による誘客	● 全国で高知県が 3 番目に認定数が多い「100年フード」（12件、宗田節など）の認定を20件まで増やし、食の背景にあるストーリーや食文化を重視した誘客に繋げてもらいたい。 ● 鰹のたたき以外に強く惹きつける「鉄板メニュー」が不足している。ジョン万の本で記載されているクラムチャウダーなど、ゆかりのある鉄板メニューを考えてみてはどうか。	● 伝統的な食文化を認定する制度である「100年フード」に認定されることは、外商を進める上でも活用できると考えられるため、認定に向けた関心や動きなどがあれば各分野で可能な支援を積極的に行っていく。 ● 県内各地域には、特徴的な食材や食文化があるので、市町村と共に郷土料理の発掘や、技術を保持した土佐の料理伝承人を選定し、食文化の伝承と地域振興につなげていく。 ● 今後もこういった取組を通して、本県ならではの食材や旬の食材を P R することで、誘客を図ることとしている。 ● 市町村等が取り組む地域食材をご当地グルメとして活かす面的な周遊促進への支援として、専門家の派遣を行うほか、複数の事業者が連携して進める地域ならではの食の高付加価値化についても補助事業による支援を調整中。
国際交流	● ジョン万次郎のストーリーを生かした恒常的な国際交流基盤の構築（草の根サミットの継続、国際交流員受入、ミュージアム間交流）に力を入れてみてはどうか。	● 草の根サミットの継続 サミットは、日本とアメリカで交互に継続され、高知大会が終わった後は、主催団体（CIE）がハワイでの開催を希望しており、現在、現地に向けて実現を働きかけているところ。 ● 国際交流員受入 高知県では、国際交流員として継続的にアメリカ出身者を受け入れているところ。学校等で、アメリカ文化を紹介する際に、ジョン万を通じたアメリカとのつながりを紹介することを検討したい。 ● ミュージアム間交流 収蔵品の貸借について、海外の博物館と取引実績のある県立文化施設もあることから、例えば、ジョン万次郎ゆかりの海外の博物館との交流の可能性など検討したい。

第 1 回大河ドラマを生かした博覧会運営委員会での主な意見

項目	ご意見	対応
小中高生向け教育	● 子どもたちへの継承の仕組みづくり（例：ジョン万次郎の精神にちなんだ賞の創設）を検討してはどうか。 ● 子ども向けの漫画、読書案内リーフレット、楽しく学べるサブテキスト（副読本）を作成して県内学校に配布するなど、ジョン万次郎の功績を県内小中高生向けの教育プログラムに活用してはどうか。	● 副読本「家庭で取り組む 高知の道徳」において、ジョン万次郎を掲載しており、こうした教材も活用しながら子どもたちへその活躍を継承していく。また、高校生の探究型海外留学を支援する「トビタテ！留学JAPAN」においても、ジョン万次郎の精神を広め、グローバルな人材育成に取り組んでまいりたい。 ● 「らんまん」や「あんぱん」の際に、牧野博士や、やなせさんの生い立ちや功績をまとめた冊子を作成しており、ジョン万次郎についても、同様の冊子を作成し、広く配布していく。 ● 授業で副読本等の活用を強制することはできないが、作成された副読本等の配付に協力することは検討可能である（各学校の学校図書館に1冊ずつ置くなど）。